

石井国土交通大臣ご挨拶  
(藤田国土交通審議官代読)

本日は、世界各国より、政府、議会、経済界、学界、メディアなど各界を代表する皆様が一堂に会され、「I H R A 国際フォーラム 2018」が盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。また、この場をお借りいたしまして、先日発生いたしました台湾での列車脱線事故に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。事故の報に接し、私自身、鉄道を含むインフラ行政に携わる者として、安全に対する不断の取組を進めなければならないとの決意を新たにしました次第です。

さて、本日のフォーラムのテーマは『複雑さを増す世界情勢と変革への挑戦～過去、現在、そして未来へ～』と伺っております。テーマに沿って我が国の歩みを振り返りますと、1964年10月、世界で初めてとなる高速鉄道「新幹線」が東京・大阪間で開業いたしました。先人達は、断固たる決意と新幹線の可能性を信じて、わずか5年で完成させ、世界を驚かせたのです。以来、今日に至るまで半世紀を超える時を刻んでまいりました。

新幹線の素晴らしさを形容する特徴は数多ありますが、何より特筆すべきは、開業以来、乗客の死亡事故ゼロ、平均遅延時間1分未満という卓越した安全性、信頼性にあります。多くの人々からの信頼を得た新幹線は皆の暮らしを支え、我が国の社会経済活動を牽引する

基幹インフラとして大きな役割を果たしてまいりました。

先日、インドネシア共和国スラウェシ島において地震が発生いたしました。本日は同国からの参加者もいらっしゃると伺っており、心からお見舞い申し上げます。

日本もまた地震大国と言われています。いつ発生するかわからない地震に備え、新幹線沿線には地震検知装置が備えられ、地震発生後には速やかに非常ブレーキが作動いたします。こうした技術もまた新幹線の安全性、信頼性を支えています。

そして、我が国では今、革新的な超電導リニア技術の活用により最高時速500キロ以上で運行されるリニア中央新幹線の建設が、東京・名古屋間で進められています。将来的には大阪まで延伸され、三大都市圏を1時間で結ぶ人口7千万人の巨大な都市圏、スーパーメガリージョンが形成されます。リニア中央新幹線の開業は、国土構造の変革をもたらすとともに、その成長力を全国各地に波及させ、社会経済の発展、国際競争力の向上を導くものと考えております。

世界を驚かせた新幹線が開業した年は、我が国で初となる東京オリンピックが開催された年でもあります。そして、2020年には、2回目となる東京オリンピック・パラリンピック競技大会を開催いたします。世界中から多くの方々をお迎えするに当たり、輸送の円滑化やバリアフリー化、セキュリティ対策に万全を期する必要があります。併せて、激甚化・頻発化する災害を踏まえ、非常時におけるインフラ施設の機能確保について確認するとともに、国民の皆様や我

が国を訪れる方々の安全・安心の確保に向けた取り組みを進めなければなりません。

世界のグローバル化が進む中、我が国が取り組むべき課題は、決して我が国だけにとどまるものではございません。新幹線を始めとする高速鉄道の整備は、これからの社会経済の変革への挑戦に必ずや貢献できると信じています。

このようなテーマについて、古くから海外との交流拠点であるここ九州・福岡において、世界から来られている各界のリーダーの皆様方が、活発、かつ有意義な議論を行われますことを心からご期待申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。